

株式会社 東洋機械製作所

【事業概要】工作機械・産業機械・専用機械の製造。素材から機械加工、組立、試験までを一貫生産
構造設計から製品化まで行う開発型企業

業界一の大型放電加工機の製造体制を確立 競争力を強化し経営体質を改善

HISTORY



左から新開社長と塚田良彦総務部長

受注型ものづくりの ナンバーワンを目指す

昭和13年に創業した東洋機械製作所は、工作機械や産業機械を製造している“受注型ものづくり”の会社だ。昭和48年以降は大手顧客に対して、工作機械や産業機械製造のエキスパートとして、大型機械の製造技術を活用し、試作モデルや専用機の設計・製作をはじめ、高品質なOEM生産を核に事業を展開。三菱電機を筆頭に、IHIや東芝機械など、70年以上にわたり多くのメーカーの生産を支えてきた。高い精度が求められる半導体や電子部品、製薬や医療、航空宇宙や自動車、造船の現場など、幅広い分野で活用されている。

同社の強みは、設計から製造、試験、輸送まで一貫生産できる充実したシステムで、高品質なOEM製造、共同開発や一部工程のみの請負など、あらゆるニーズに柔軟に応える対応力だ。高品質・短納期・低コストを追求しながら、受注型ものづくりのナンバーワンを目指している。

TURNING POINT



横型マシニングセンタ。4面を一気に加工することが可能

大手企業が手に負えない 付加価値の高い加工技術を持つ

前職は取引先の三菱電機で製造業務を担当していた新開社長。3年前に同社社長に就任した。就任当時に、中小企業の厳しい状況を思い知らされたという。

「日本のものづくりは量産品を中心に海外へシフトされ、試作機や専用機などの開発を担当するエンジニアやベテラン技能者が減っている。大手企業はその穴埋めを中小企業に求めている」と現状を分析する。

中小企業が生き残るには、大手企業が手に負えない、付加価値の高い技術を持つことが必要である。そして、新開社長は、最新鋭の機械を導入し、業界一の製造体制を確立しようと考えた。

そんなとき、中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業(ものづくり補助金)の存在を知る。「中小企業にとって、設備投資には勇気がいるが、やらなければ生き残れない。そうした葛藤の中で、ものづくり補助金は新しい一歩を踏み出す大きな力になった」と振り返る。



□本社所在地／静岡市清水区辻1-9-22
□設立／昭和13年12月
□資本金／45,000,000円
□従業員数／54人

<http://toyo-machine.co.jp>

最新鋭の5面加工機。加工時間の短縮により生産性が大幅に向上

INNOVATION



門型平面研削盤。難度の高い大型部品の加工ニーズに対応

最新鋭の大型5面加工機を導入 業界一の製造体制を確立

近年は毎年、ものづくり補助金を活用して、新しい取り組みにチャレンジし続けている同社。平成24年度の補正予算では、これまで手つかずだった各種業務のIT化に投資。会社の問題点を数値化して顕在化することを目的に、生産管理システムを構築し、設計部門には3次元CAD、生産技術にCAD・CAMを導入した。

平成25年度は、最新鋭の大型5面加工機を導入。生産性の向上、コストの低減、精度の向上を実現し、最重要顧客のニーズに対応。さらに、業界一の大型放電加工機の製造体制を確立することで、国内外の競合他社との差別化を図り、生産工数の低減による収益改善を行い、経営体質を強化したいと考えている。「複雑な加工の受注が可能になったことで、新規顧客を開拓することができた。今後の営業活動の看板になる」と新開社長は期待を寄せている。

開発新製品
新技術



CHALLENGE



2008年に完成した組立工場

ハード面の強化にあわせて 技術者の養成にも尽力

大手企業が外注費を抑えるために内製化を進めているなか、下請けの中小企業は、こうした不況の波を正面から受けているという新開社長。そこで、平成26年度の補正予算では、受注型ものづくりに依存せず、自社ブランドの製品を開発しようと、微細精密横型加工機の開発に挑戦。今年6月に「日本ものづくりワールド2016」に出展、11月には「JIMTOF」に出展し、販売開始予定だ。

さらに、現在は人材への投資も始めている。生産性を上げていくためには、ハード面だけでなく、技術者の養成も必要と、中小企業基盤整備機構よりアドバイザー派遣を受け、社員教育にも力を注いでいる。

「新しい取り組みに挑戦することで、社内の空気が一新され、社員のモチベーションが上がった」と喜びを語る新開社長。塚田良彦総務部長は「申請書類作成にあたり、自社のレベルを再認識することができ、自主的な改善意識につながった」と話す。